

混合堆肥複合肥料を用いた省力施肥法

国内で確保が容易な家畜ふん堆肥と化成肥料を混合した新タイプの肥料が開発され、実証試験を行いました。この肥料を利用することにより、施肥と堆肥の同時施用が可能で、堆肥の特性である土づくり効果も期待できる。

しくみと外観

●堆肥が原料

家畜糞と化成肥料を配合したもの

●法律の改正

いままでは堆肥は肥料と混ぜて製品にすることは、法律で禁止されていたが、製造技術の向上と法改正により、肥料の原料としての使用は可能となった



有機配合肥料 混合堆肥複合肥料

堆肥と肥料が混合されている

施肥1年後の樹の外観



(慣行区)



(混合堆肥区)

樹勢・果実品質に差はない

果実品質・収量

果実品質・収量は同等

果実品質・収量

	糖度 (° Brix)	酸 (g/100ml)	粗滑 (1粗-5滑)	果皮色 (a値)	着色 (10完着)	単位収量 (kg/m ³)
混合堆肥区	14.4	1.83	4.7	25.6	10.0	4.2
慣行区 (肥料+堆肥施用)	13.7	1.94	4.5	23.5	10.0	4.0
有意性	ns	ns	ns	ns	ns	ns

※ 調査日:2016.1.21

※ 有意性: ns有意性なし

土壌の化学性

堆肥を施用した場合と同等

全炭素、腐植

	全炭素(%)		腐植(%)	
	試験開始前	1年後	試験開始前	1年後
混合堆肥区	0.98	1.13	1.69	1.94
慣行区 (肥料+堆肥施用)	0.89	1.14	1.54	1.96
有意性	ns	ns	ns	ns

※ 有意性: ns有意性なし

混合堆肥複合肥料と慣行施肥区(堆肥+配合肥料)で品質・収量は変わらない結果となった。今後も試験を継続し調査を行う予定。

(注意)今回使用した肥料は試作品であり、現在県内には流通していない